



IEEE Japan Council Women in Engineering

(IEEE JC WIE)

第 2 期 (2008. 1-2009. 12)

活動報告書

2010/01/29

目次

1. はじめに
2. 第2期活動報告
 - 2.1 役員体制
 - 2.2 重点項目とその結果
 - 2.3 活動実績
 - 2.4 論文

1. はじめに

本文書は、IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group (以下 IEEE JC WIE) 第 2 期 (2008. 1-2009. 12) の活動報告書である。

IEEE JC WIE は IEEE 内の女性研究者・技術者支援の組織である WIE の日本支部として 2005 年 5 月に設立されたグループである。すでに第 1 期 (2005. 5-2007. 12), 第 2 期の 4 年半が経過し、これまでロールモデルの紹介, 人的ネットワークの構築支援などを積極的に行ってきた。特に第 2 期は、國井秀子会長 (リコーIT ソリューションズ (株) 取締役会長執行役員) の下、活動の参加者を広げ、影響力を拡大することを目標として、講演会・ワークショップといった種々の活動を継続的に実施した。IEEE 本部, IEEE R10 (アジア・パシフィック地域) からも高い評価を受け、2009 年には「IEEE WIE Affinity Group of the Year Winner 2008」, 「IEEE R10 Woman in Engineering Affinity Group of the Year Certificate of Honor 2008」といった Award も受賞している。

こうした成果を挙げることができたのも、IEEE JC WIE 会員の皆さま始め多くの協力者の方々の暖かいご支援の賜物である。第 2 期を終え、第 3 期 (2010. 1-2011. 12) を迎えるにあたり、第 2 期の活動を総括し、ご支援いただいた皆さまにご報告したく思い、今回初めて IEEE JC WIE の活動報告書を発行することとした。皆さまにはぜひご一読いただき、我々の活動をご理解いただくとともに、次期以降の活動に向けたさまざまなご意見を頂戴できれば幸いである。

IEEE JC WIE は海外諸国と比較してまだまだ小さなグループであり、今後、さらなる会員増と役員体制の強化を図っていきたいと考えている。皆さまには引き続きのご指導ご鞭撻を賜りたくお願いする次第である。

2010. 1

IEEE JC WIE 役員一同

2. 第2期活動報告

2.1 役員体制

2.1.1 2008年度 (2008年1月～12月)

Chair: 國井秀子 ((株)リコー)

Vice Chair: 大武美保子 (東京大学)

Chief Secretary: 橋本隆子 ((株)リコー)

Vice Secretary: 青木真理子 (NTT)

Treasurer: 矢野絵美 (中央大学) 2008年9月より

出水田智子 (会津大学) 2008年5月まで

Webmaster/Adviser: 西原明法 (東京工業大学)

2.1.2 2009年度 (2009年1月～12月)

Chair: 國井秀子 (リコーITソリューションズ(株)*)

Vice Chair: 大武美保子 (東京大学)

Chief Secretary: 橋本隆子 (千葉商科大学)

Vice Secretary: 山野辺夏樹 ((独)産業技術総合研究所)

Treasurer: 矢野絵美 (リコーITソリューションズ(株)*)

Liaison to International: Basabi Chakraborty (岩手県立大学),

加藤ジェーン (名古屋大学), 白田由香利 (学習院大学)

Publicity: 庄司裕子 (中央大学), 小杉尚子 (NTT)

Webmaster/Adviser: 西原明法 (東京工業大学)

* 2009年6月までリコーソフトウェア(株)

2.2 重点項目とその結果

第1期(2005.5-2007.12)では、我々IEEE JC WIE は国際的な学会組織のグループとして、海外の女性研究者・技術者の紹介を中心に活動した。グローバルな観点から女性研究者・技術者の課題を共有できる貴重な機会となったが、英語による講演のため集客が難しく、IEEE JC WIE の認知度も思ったように向上しないという課題があった。そこで第2期(2008.1-2009.12)は、國井秀子会長(リコーIT ソリューションズ(株)取締役会長執行役員)の下、1)活動の参加者を広げ、2)影響力を拡大することを重点目標とし、日本語によるイベントの実施、各種学協会との連携、若手への働きかけ強化といった施策を実施した。これが多大な効果をもたらし、数多くの参加者が来場する活発なイベントを開催することができた。IEEE JC WIE の認知度も大きく向上したと考える。ここでは第2期の重点目標とその結果について述べる。

重点目標1. 活動参加者の増大

各種施策が功を奏し、第2期は全てが多数の参加者(50名~100名超)を得た盛況なイベントとなった。特にパネルディスカッション「企業における女性のキャリアの築き方」(08年6月)及び岩手県立大学との共催による「地域社会で女性が活躍するため-女性が活躍すれば、地域はもっと活性化する!-」(09年10月)には100名を超える参加者が来場し、IEEE JC WIE 始まって以来の参加者数を達成した。またIEEEの若手研究者の会(GOLD)[1]、学生グループ(SAC)[2]との共催による「若手研究者のためのキャリアアップワークショップ」も2回実施し、若手の活動参加者増にも大きく貢献した。

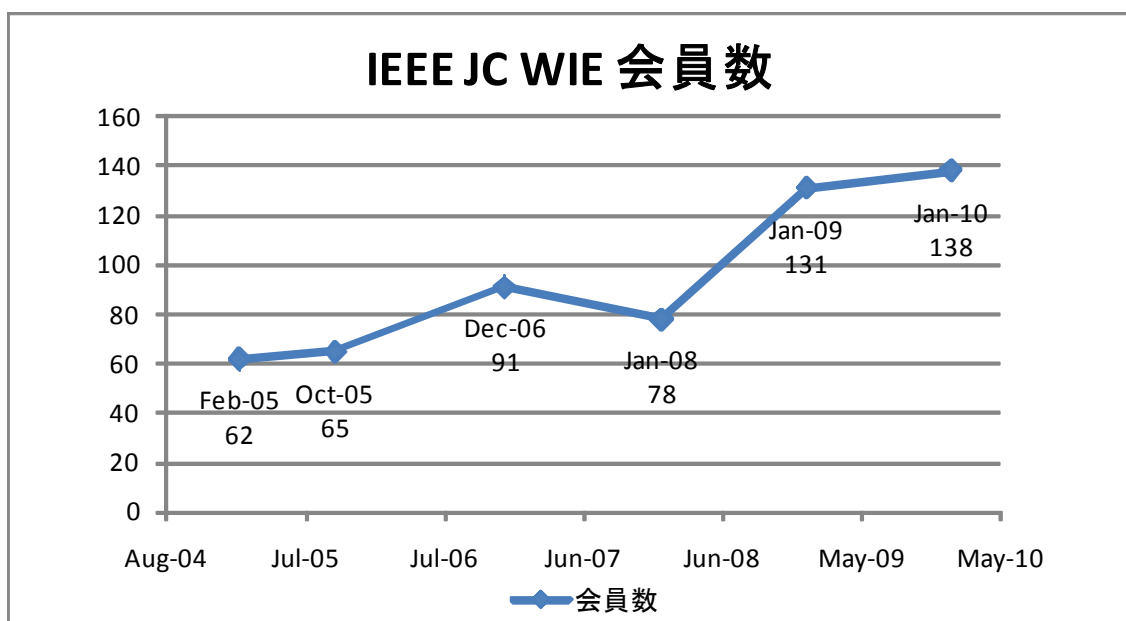
これらのことから第2期における「活動参加者の増大」といった重点目標は十分に達成できたと考える。

重点目標2. 影響力の拡大

活動参加者が増えるに従い、IEEE JC WIE の認知度・プレゼンスも大きく向上した。その結果の一つとして、共催・協賛依頼の増加が挙げられる。津田塾大学、名古屋大学、九州大学、情報処理学会といった各種学協会からイベントの共催・協賛依頼が多数来るようになったことは、我々の影響力の拡大を示していると考えられる。

またIEEE JC WIE の会員数も徐々にではあるが増加してきている。IEEE JC WIE 設立当初60数名であった会員が2009年1月には約130名、2010年1月には約140名に増加している。

影響力の拡大を正確に計測することは困難ではある。しかしながら、活動の参加者増大、各種学協会からのイベント共催・協賛依頼の増加、会員数の増加などから、我々の影響力は順調に拡大してきていると考えられる。



[1] IEEE Tokyo GOLD Affinity Group

<http://www.ieee-jp.org/tokyogold/index.html>

[2] IEEE Japan Council Student Activities Committee

http://www.ieee-jp.org/japancouncil/student/adm/sac/sac_activities.htm

2.3 活動実績

2.3.1 2008年度

■Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会

演題：国際社会で培った私のキャリア

演者：郷通子氏（お茶の水女子大学長）

年月日／会場：2008年3月1日／お茶の水女子大学

出席者数：67名

2. パネルディスカッション

演題：企業における女性のキャリアの築き方（How to develop business career）

演者：土井美和子氏（（株）東芝 研究開発センター 技監）

辻ゆかり氏（日本電信電話（株）主幹研究員）

初鹿野久美氏（日産自動車（株）P V第二製品開発本部 設計グループ主担）

橋本隆子（（株）リコー 研究開発本部 スペシャリスト、WIE役員）

年月日／会場：2008年6月18日／お茶の水女子大学

出席者数：115名

3. 講演・パネルディスカッション

演題：ダイバーシティ（多様性）が創る未来～個性と能力を発揮できる社会へ～

演者：國井秀子（リコーソフトウェア株式会社）

パネルディスカッション：

●コーディネータ&パネリスト：

稲葉寿美氏（フリーアナウンサー、元東海テレビアナウンサー）

●パネリスト：岩田敏子氏（愛知県県民生活部 男女共同参画室長）

大島尚美氏（名古屋市総務局総合調整部 男女平等参画推進室長）

松本宏克氏（愛知県経営者協会会員サービスグループ部長）

橋本隆子（（株）リコー グループ技術開発本部 研究主担 / WIE役員）

武田穰（名古屋大学産学官連携本部教授）

東村博子氏（名古屋大学男女共同参画室長）

年月日／会場：2008年11月10日／名古屋大学

出席者：75名

II. 協賛

1. 講演会（協賛）

演題： Thinking Outside the Box We Exist In: You Can Win a Nobel Prize

演者： Dr. Rob Reilly (Chair of the IEEE Education Society's Chapters)

年月日／会場：2008年7月15日／東京工業大学

出席者数：20名

2. 講演会（協賛）

演題： テクノロジー分野で働く女性研究者支援を考える

演者： Caroline Simard, Ph D. (Anita Borg Institute for Women and Technology, Director of Research))、他

年月日／会場：2008年11月23日／津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス

出席者数：60名

■Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. WIE役員会を4回開催（3月，5月，9月，11月）

2. Tokyo GOLDとの会議を1回開催（11月）

2.3.2 2009年度

■Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会（共催：情報処理学会）

演題： ダイバーシティを促進するメンタリング活動

演者： 清見純子氏（リコーリース（株））

藤原佐和子氏（（株）ソシオテック研究所）

菅原佳代子氏（日本IBM（株））

年月日／会場：2009年1月27日／大手町サンケイプラザ

出席者数：30名

2. ワークショップ（共催：Tokyo GOLD Affinity Group, 東京電機大学Student Branch, 日本感性工学会）

演題： 第1回 学生・若手技術者のためのキャリアアップワークショップ

『社会で活躍するために・・・学生時代のスキル構築編』

演者： 安藤昌也氏（産業技術大学院大学），飯島貴広氏（日本IBM），

高野千尋氏（産総研），橋口知弘氏（富士通），原田浩樹氏（NTTドコモ），

安田絹子氏（グーグル），矢野絵美（リコーソフトウェア）

年月日／会場：2009年6月20日／工学院大学

出席者数：77名

3. キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテスト（共催：Tokyo GOLD Affinity Group）

演題：キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテスト

演者：Nadia Mei Lin, TAN さん他

年月日／会場：2009年10月23日／レベルXXI（125周年記念パーティ）

4. 講演会・パネルディスカッション（共催：岩手県立大学）

演題：地域社会で女性が活躍するため－女性が活躍すれば，地域はもっと活性化する！－

演者：國井秀子（リコーITソリューションズ）

佐藤応子氏（岩手県環境生活部青少年・男女共同参画課総括課長）

佐藤れえ子氏（岩手大学農学部附属動物病院病院長）

柿田幸子氏（リコーITソリューションズ株式会社 ITソリューション事業部（秋

田））

伊藤憲三氏（岩手県立大学 副学長）

年月日／会場：2009年10月28日／岩手県立大学

出席者数：103名

5. ワークショップ（共催：Tokyo GOLD Affinity Group, 東京電機大学 Student Branch, 横浜国立大学 Student Branch, 東京理科大学 Student Branch）

演題：第2回 学生・若手技術者のためのキャリアアップワークショップ

演者：谷村壮氏（富士通研究所），高田哲氏（日立ハイテクノロジーズ），

崔春花氏（リコー），山田一穂氏（NTT東日本），深澤佑介氏（NTTドコモ），

山野辺夏樹（産総研），深谷訓久氏（産総研），栗原浩氏（元日産自動車株式会社）

年月日／会場：2009年11月28日／東京電機大学 神田キャンパス

出席者数：50名

II. 協賛

1. 講演会

主催：中央大学理工学部・理工学研

演題：理工系女子のチカラ。－女子高校生のための理工系進学イベント－

演者：須田久美子氏（鹿島建設（株）），柴山由美氏（（株）ロッセ）等

年月日／会場：2009年3月20日／中央大学 後樂園キャンパス

2. 講演会

主催：津田塾大学女性研究者支援センター

演題：第2回シンポジウム「ICT分野で国際的に活躍できる女性人材の育成を考える-日欧の事例を中心に-」

演者：藤澤美穂氏（内閣府男女共同参画局），山田真貴子氏（総務省総合通信基盤局）他

年月日／会場：2009年10月17日／津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス

3. 講演会

主催：津田塾大学女性研究者支援センター

演題：第2回私立大学合同シンポジウム「男女共同参画の輪をさらに広げよう」

演者：白井克彦氏（早稲田大学総長），内海房子氏（NEC ラーニング株式会社）他

年月日／会場：2009年12月4日／津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス

■Non-technical (e. g. Professional or Administrative) Meetings

1. WIE役員会を6回開催（1月，5月，6月，7月，10月，11月）
2. Tokyo GOLDとの会議を4回開催（1月，3月，9月，11月）

2.4 論文

國井 秀子, 橋本 隆子: 「女性技術者・科学者が活躍する社会に向けて」,
「横幹」第3巻 第2号, pp. 114-120, 横断型基幹科学技術研究連合（横幹連合）,
2009年10月